

# 1. 消費水準——八大商圏+αの拡がり

中国都市住民の一人当たり年間消費支出は1万5161元(19万円、2350米ドル)である(2011年)。人民元の購買力(PPP)で換算すれば約42万円(3790米ドル)程度となる。(1)の表と(4)の図は、消費支出をA~D、人口をa~dとそれぞれ4段階に区別して、106都市を16ランク(Aa~Dd)に格付けしたものである。消費支出2万円とは購買力価格で56万円(5000米ドル)に相当する。これによって106都市の消費力を一望することができる。

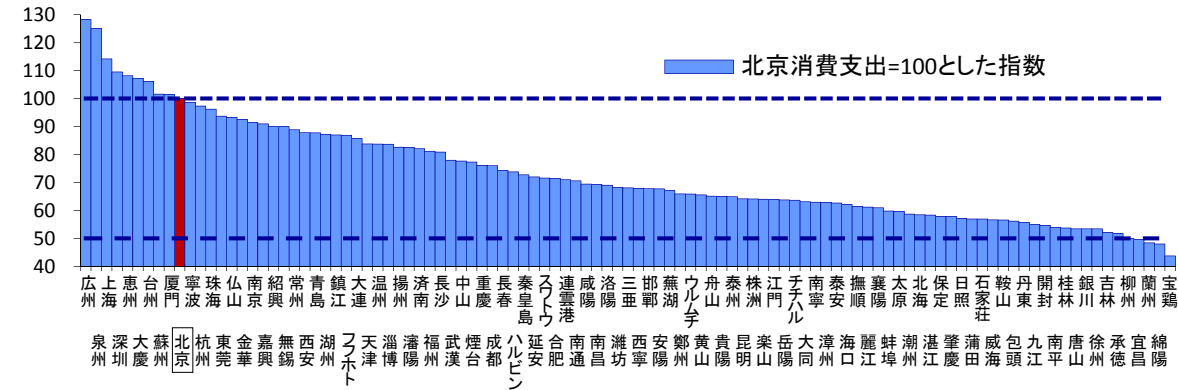
北京と中国各都市の消費水準を比較する実践的目安として作成したのが(2)のグラフである。北京を凌駕するのが9都市、北京の8割程度の消費がある都市が25都市、北京の半分以下はほとんどない。(3)のグラフの消費性向は、使う気になれば使える所得のうち、どれだけを使うかの指標である。社会保障に不安のある中国の住民は、もしもに備えて貯めこみ、一般的に消費性向が低い。

## (1) 質の高い広州、深圳商圏——一人当たり消費支出と人口による格付

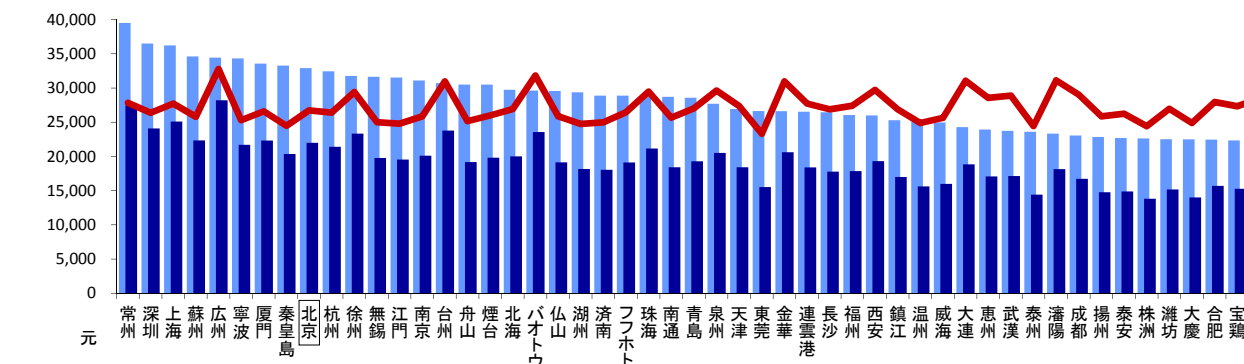
一人当たり消費支出(2011年)	都市人口(2010年センサス)			
	a(1000万人以上)	b(1000万人未満600万人以上)	c(600万人未満200万人以上)	d(200万人未満)
A(20000元以上)	広州、上海、深圳、北京	東莞、佛山、温州、蘇州、杭州、南京	バオトウ、厦門、寧波、惠州、中山、紹興、金華	珠海
B(20000元未満16000元以上)	天津、重慶	瀋陽、武漢、成都、ハルビン	台州、無錫、嘉興、西安、青島、常州、大連、泉州、煙台、済南、福州、長沙、江門、長春	舟山、フフホト、湖州、威海
C(16000元未満12000元以上)	—	—	瀋陽、咸陽、スフトウ、合肥、南通、鎮江、宝鶏、蕪湖、三亜、銀川、蒲田、南昌、濰坊、鞍山、泰安、揚州、鄭州、潮州、綿陽、肇慶、大慶、日照、唐山、泰州、漳州、貴陽、昆明、湛江、海口、延安、黄山、桂林、北海、洛陽、南寧、株洲、吉林、岳陽、太原、丹東、梁山、蚌埠、南平、撫順、柳州、石家荘、徐州、蘭州、宜昌	九江、邯鄲、ウルムチ、連雲港、安陽、秦皇島、承德、西寧、麗江、チチハル、保定、襄陽
D(12000元未満)	—	—	—	—

注：ラサはna

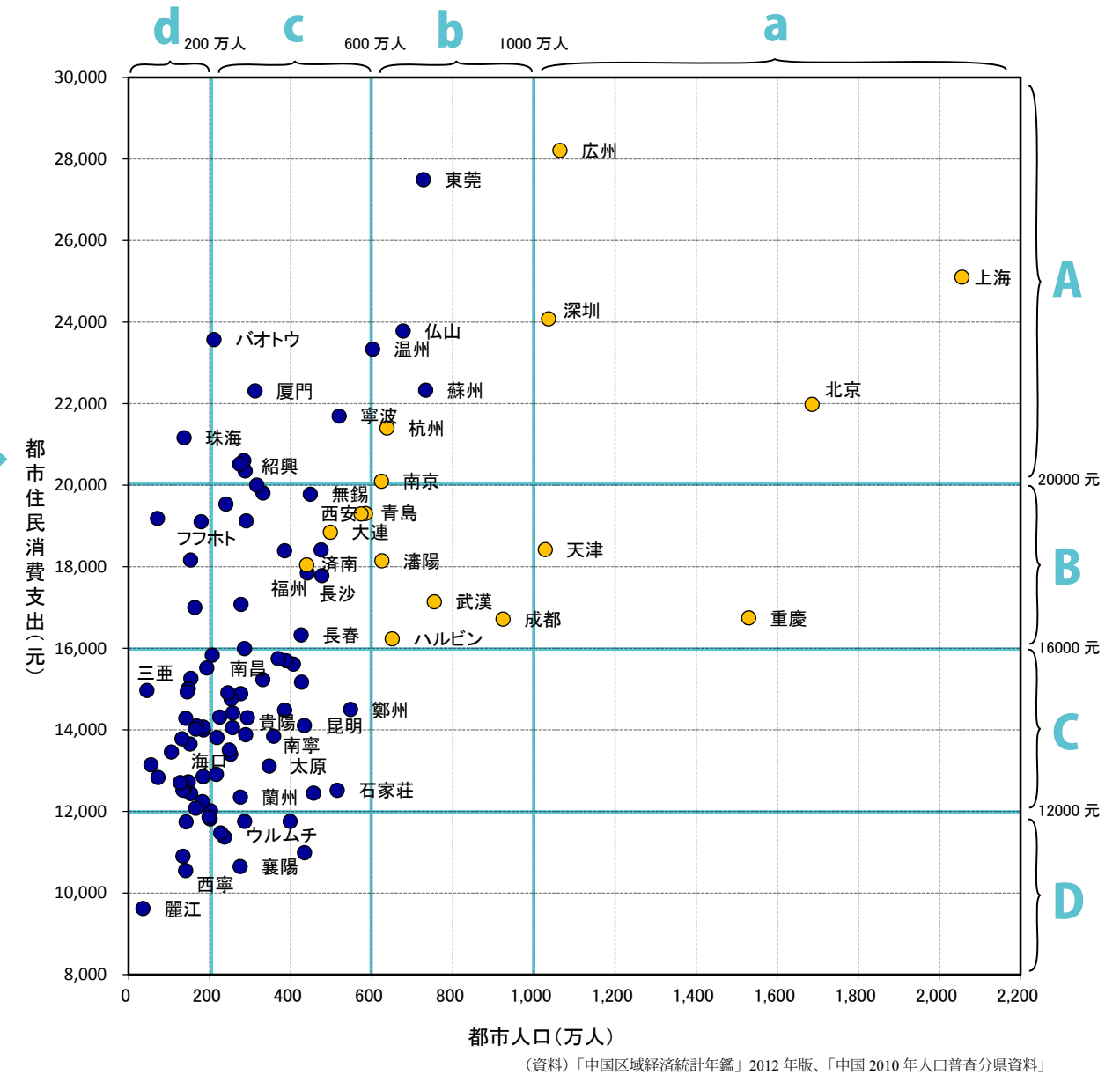
## (2) 半分の都市は北京の7割以上の消費水準——北京を100とした各都市の消費額指数



## (3) 宵越しのカネを持たないスフトウ、渋チンの東莞——一人当たり可処分所得・消費支出・消費性向



## (4) トップ広州とラスト麗江の格差は約3倍——一人当たり消費支出と人口の相関



(資料)「中国区域経済統計年鑑」2012年版、「中国2010年人口普查分県資料」

